



令和7年度 中学部 生活単元学習の実践事例

単元名：学校の近くのお店で、頼まれたものを買って来よう

授業者：高藤 直弘

教材について

本グループの生徒は、金額表示を見てちよどどの金額をそろえたり、財布の中のお金をすべて出したりして、自分がほしいものを買う経験をしているが、教師や保護者と一緒に買い物をする生徒がほとんどである。

そこで、本実践では、購入する商品の値段を推測して予算を考える、購入する商品を自分で探すなどの学習を通して、買い物に必要なお金を自分で準備したり、自分で商品を選んだりすることができるようになり、買い物に関して一人で取り組めることを増やしてほしいと考えた。その際、商品の値段を推測したり、商品を探したりする必要性を感じながら学習を進めることができるように、自分に馴染みのないものを購入対象として設定できるという視点から、頼まれたものを購入するという活動を取り上げた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容

職業・家庭科 中学部1段階【家庭分野】 C 消費生活・環境 ア 身近な消費生活

知・技：(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。

思・判・表：(イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うとしたりすること。

学 び：ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。

配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容

社会科(生活科小学部3段階 コ社会の仕組みと公共施設)

知・技：(イ) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり活用したりすること。

単元目標

知・技	模擬店で頼まれた商品を買う時、商品表示の意味がわかり、買い物メモを使って該当の商品を選ぶ
思・判・表	保護者から頼まれた商品をスーパーで買う時、商品の銘柄や味、内容量等を判断し、買い物メモを使って該当の商品を選んでかごの中に入れる
学 び	買い物で気をつけた点を発表する時、それぞれの商品表示の意味について発表する
配 慮	バスの時刻表から乗車可能なバスを選ぶ(バスの行き先、系統、時刻)

授業評価

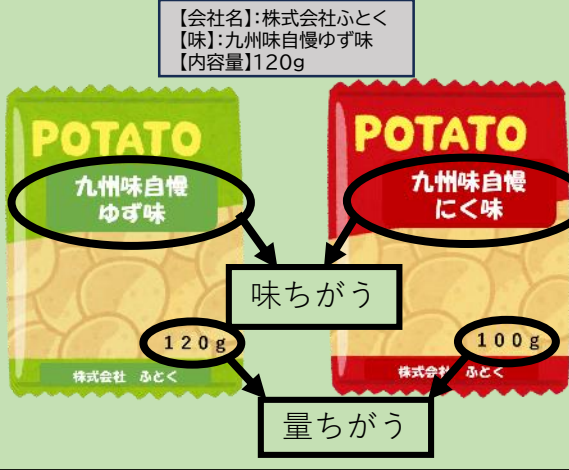
知・技	買い物メモを使って商品表示の意味(商品の銘柄や味、内容量等)を一つ一つ確認し、該当の商品を選ぶことができた。
思・判・表	買い物メモをもとにお菓子の味と商品名や、歯磨き粉の商品名と量、ごみ袋の大きさなどを確認してスーパーの商品棚から頼まれた商品を選び、かごの中に入れることができた。
主 体	気をつけた点について「何gを確かめた」などと発表する姿が見られた。
配 慮	時刻表のバスの行き先や系統、時刻を確かめて、乗車するバスや時刻を決めることができた。



商品の銘柄や味、内容量等の表示を確認するための学習活動の工夫

会社名や味、商品名、内容量等の情報を提示し、その情報をもとに、似たような2つの商品を比較し、指定の商品を見つける活動から取り組んだ。その後、比較する活動の中で考えたことや気づいたことを自分で整理する活動に取り組んだ。

【活動1】似たような商品を2個並べて指定の商品を見つける活動



【活動2】頼まれた商品にある表示の意味を整理する活動(視覚化)



商品が変わっても表示の意味を読み取ることができるようにするための働きかけの工夫

模擬店での商品を選ぶ活動の中で、発表の場面を設けた。これまで学習してきた「商品の表示の見方」を活用して、友だちが選んだ商品を見て、正しく選び取れたかどうかを説明するように働きかけた(言語化)。



考察

「どこが違うのか」「なぜこちらを選んだのか」を一緒に考えながら、似た商品を見比べる活動をすることで、商品の違いをよく見るようになった。また、わかったこと(商品の表示の意味)を整理する活動(視覚化)をすることで、商品の表示とその意味をより明確にすることができたと考える。さらに、友だちの商品が合っているかを確認する活動の中で自分が得た知識を教師の問いのもと言語化することで、学習したことを再確認でき、より確かな知識の定着へと結びついたと推察する。本単元のように考える、整理する(視覚化)、伝える(言語化)の3つの学習過程を大切にすることで、「何ができるようになったのか」を生徒自身が自覚しやすかったのではないかと考えられる。